

# 夕映え

創刊号

発行

玉造厚生年金病院

発行責任者 上尾豊二

〒699-0293

島根県八束郡玉湯町湯町1-2

TEL (0852) 62-1560(代)

## 玉造厚生年金病院の理念

1. 私たちは、医療人としての責任を自覚し、研修をおこたらず安全で水準の高い医療の提供に努めます。
2. 私たちは、患者様が自立した生活を送れるよう身体機能の回復、維持、日常生活動作の改善を支援します。
3. 私たちは、「いつも笑顔で真心こめて」をモットーに、患者様の立場に立った心温まる医療を行います。
4. 私たちは、地域の人々のために、保健・福祉活動の充実に努めます。

### 創刊の挨拶

### 当院の基本方針

### 病院長 上尾豊二



2004年新春を迎え、気持ちを新たに病院職員一団となって診療に取り組みましょう。今年から院内の情報を職員が共有し、また開かれた病院として社会へ広報するために情報紙を発行することにいたしました。まず巻頭の言葉として院長の思いの一端を述べたいと思います。

今年は病院機能評価を受ける大事な行事があります。この評価を達成することで何か実質的な診療報酬上の利益が生じることは当院ではありませんが、評価に合格していなければ一人前の信頼される病院として世間が見てくれないことも事実です。昨年からは本格的に病院機能評価に向かったの取り組みを各職場で行っていただいています。

評価リストを丹念にたどる事により今まで習慣的に行って疑問に感じなかった行動や仕組みが不十分なことが理解され改善されつつあります。機能評価に合格することが最終目的ではありませんが、今皆さんが行っている業務見直し行動がそれだけで十分価値ある事であります。そのことはすでに評価を受けた全ての病院の院長が言っている言葉です。

玉造病院の歴史を皆さんご存知でしょうか。

昭和20年の日本敗戦の4ヶ月後に温泉旅館暢神

亭を借用して開院したも

のです。玉造整形外科療養所といい畳敷きの客間が病室でした。



開設当時の病院

当時発足したばかりの厚生年金制度を補完する福祉施設としての開始です。厚生年金保険法第79条に基づいています。設立の趣旨は戦争の混乱に関連して多くの障害者が発生しましたが、この人たちを社会復帰可能とすることが基本となっています。当時まだ日本では希少であった整形外科を導入して診療が始まりました。戦争から復員されたばかりの塩津先生が京都帝大整形外科近藤教授の命を受けて赴任され診療が始まりました。食料不足で大変な苦勞であったということです。しかし新進の骨折治

療、関節手術はたちまちのうちに評判を呼び山陰一円ばかりか四国からも患者を迎えることとなりました。当時は整形外科の専門施設は中四国地方では大学にも存在しませんでしたし病院もなかった時代です。

以来卓抜した治療成績で評判を高め、病床数は年を追って増加し、ついには昭和43年には整形外科単科で341床に達する全国最大の施設になりました。



移転時の正門と本館

その間、大塚副院長によるリハビリテーションの創設は当病院が日本でのリハ分野のパイオニアとしての評価も受けることともなりました。手術治療

とリハビリテーションの両輪がうまく回転して一人の患者様の機能が回復してゆくという理想的な形態が出来上がりました。当初の障害者の機能回復を目的とした厚生年金福祉施設事業の設立が、半世紀以上の長い歴史の中で営々として育まれ目的が達成されてきたわけです。

幸いなことに時代の流れも医療の価値を単に命を救う治療から生活の質を高める(QOL)治療へと重点が変わってきています。国の政策も老人の寿命が単に長いことではなく健康寿命が長いことが大切と力点が変わってきました。私どもの病院は機能回復、生活の質の向上を中心として、ほかの近隣総合病院との差別化を図っていきたいと思います。百貨店ではなく専門店の時代です。病院は特徴を明らかにして一定分野で独壇場を持つことで生き残りを図る時代となっています。設備の面でも人のサービスの面でもすばらしい環境の中で身体機能を回復することで社会の支持を得たいものだと考えています。

おいおい他の話を次号でさせていただきます。

## 看護部の紹介 病院誌創刊によせて

### 看護部長 大久保 圭子

情報を院内および地域と共有し当院のあり方を透明化する目的で病院誌が発刊されることになりました。そこで、看護部にも投稿の機会をいただきましたので、代表して看護部長として看護への思いを書かせていただきます。

平成16年は、勤務された皆様のご努力のお陰で静かに迎えられました。でも、病院の外は慌ただしく動いていました。政治、経済、スポーツなど、メディアは絶えまなくニュースを報道しています。

世の中の変化と同様に看護も変化しています。その変化に対応しなければ取り残されてしまいます。迫り来る危機感を何とか解消しようとの思いから、誰もが何かの研修に参加して、少し安心して、暫くするとまた不安が押し寄せてくることの繰り返しをしていませんか。不安になるのは、研修で知識を得たのに使わないうちに忘れてしまったことに気づくからです。

看護部では、社会のニーズに応えられる専門職業人として個々の能力を十分に発揮させ、創造性のある看護師の育成を目指しております。人間性豊かな看護師を育てるため、一人ひとりの看護部職員が仕事に対する満足度が高められるように支援しています。看護部の研修は参加した看護師が、研修で得た知識を看護実践で活用するために、さらに大きく膨らませて欲しいという思いがこめられています。

医学的および看護的視点で患者さま個人をみつめ、その人らしく病気からの回復という目的をはたすために、支援することで創造性のある看護を実践できます。期待する結果が得られた時やりがいへと繋がります。創造力がパワーダウンしてきた時、患者さまのベッドサイドに行けば患者さまから知恵をいただけます。それは患者さまが実際に健康回復のためその人らしく努力・工夫されている様子から言葉であらわせない知識が得られるからです。感性がないとまたは意図的に情報を収集しようという気がないと見逃してしまいます。看護学生のころ患者さまに色んなこと教えていただきましたよね。知りたい、どうして、何故という感性がピカピカに磨かれていたからです。いま、またさらに感性に磨きをかけましょう。



## 一日転倒予防教室のご紹介

### 整形外科 部長 池田 登



現在、日本人の平均寿命は世界でも最高水準となり、全人口の5人にひとりが65歳以上という高齢者社会です。長寿社会となった今“寝たきり”や“ボケ”にだけはなりたくない。いつまでも健康で長生きしたいということは誰もが持つ願いとも言えるでしょう。しかし、最近、転倒して骨折し、なかには寝たきりになる高齢者が増えています。このことは高齢者本人だけでなく高齢者を介護する家族にとっても、またこのことに対する治療や介護に関わる費用を考えたら国家的にも、深刻な問題となっていると言えるでしょう。

以上のような趣旨から、わたくしたちの病院では、転ばないためにはどうしたらよいかというテーマで近隣のお年寄りを対象にこれまで3回の一日転倒予防教室を開催いたしました。その内容は講演、健・腿脚度チェック、転ばないための運動の紹介をしています。この教室をきっかけとして転ばぬための知恵をつけ、転ばぬための工夫をいざから心がけて行なって頂ければと願っております。



## 玉湯幼稚園児 お見舞い

平成15年9月12日、今回も玉湯幼稚園児24名が患者さんのお見舞いに来て下さいました。粘土で作った花瓶と花を手にもって、元気いっぱいの園児たちは4名ずつ6班に分かれて病室を訪れました。いつもは静かな病室も園児達の大きな歌声が響くと、患者さんも職員も足を止め可愛い面会者に顔をほころばしていました。動けない方は訪室を心待ちにされ、中には園児たちの無邪気な姿をお孫さんと重ねられたのでしょうか目をうるませている方もおられました。



## フォレストアンサンブル部の活動を振り返って

フォレストアンサンブル部 部長 松本秀子

初めてのクリスマスコンサートを玄関ロビーで開催してから早や7年の歳月が経過しました。地味ながらも継続することを目標に歩んできましたが、この間、夏の七夕コンサートと合わせて13回のコンサートを経験したことになります。

7年間の足跡を振り返ってみますと、多くの皆さんに色々な形で助けて頂いたなあという感謝の気持ちと、患者様に楽しいひと時を過ごして頂いたという喜び、何かを成し遂げたようなさわやかな充実感…等色々な感慨があります。

フォレストのメンバーは現在18名ですが、退職されたり加入があったりで絶えず変化しています。今後も変遷を重ねるでしょうが、何かを積み重ねていくことによる大切さを感じながら、フォレストアンサンブルの活動を通して今後も多くの人との出会いを大切にしていきたいと思います。



七夕&クリスマスコンサートの様子

## 一日看護体験

平成15年7月30日の1日間、島根県看護協会の「看護の心」普及事業の一環として当院で「1日看護学生・看護体験」を実施した。

高校生10名が5病棟に分かれ、看護師業務の説明や血圧測定の見学、患者様の護送、洗髪、シャワー入浴、足浴、清拭をそれぞれ体験してもらった。

参加者から「シャンプーやシャワー入浴の介助し、感謝されとてもうれしかった。小さい頃から看護師になりたいという思いは変わらない。」と感想を述べ充実した体験となった。



血圧測定の仕方を見学

## その他の院内での活動

### リウマチ教室

第1回 H15年3月7日

講演「関節リウマチの最新の治療」 川上医長

第2回 H15年10月24日

講演「関節リウマチの手術療法について」 上尾院長

### 糖尿病教室

第1回 H15年11月26日

講演「糖尿病とはどんな病気か」 芦沢部長



## こちら玉病探検隊

### Vol.1 中央監視室

「中央監視室」の紹介をします。

私達の職場「中央監視室」は、一口で言えば院内のエネルギー源、機械、機器類を管理、監視するいわば見張り番のような仕事をやっています。

5人のスタッフで当直のローテーションをくみ、毎日誰かが勤務しており無人となる日は全くありません。ですから、当直勤務にあたれば土日に関係なく勤務につきます。慣れるまでは少々きつく感じますが、その代わり平日の休みが結構取れますので、慣れてくればこれがかなり快感になるものですよ フフフ・・・

さて、病院のエネルギー源といえば、まず電気、水道、それに蒸気、その他いろいろありますが、その全てを私達中央監視室のスタッフは扱っています。中でも一番気を使い難しいのが電気です。病院という特殊性もあり停電事故は絶対に避けなければならない事ですが、完璧にはなかなかいかないものです。ボイラーにしてもこれが完璧な運転方法だというのが見つからずいろいろ情報を集め、試行錯誤しながら病院にあった運転方法を考えています。

その他に日常点検、月次点検、年次点検等の点検業務もあり、この業務で異常の早期発見ができ、手当も早めに出来ることとなりますので非常に重要な業務のひとつです。ただ、点検をしながら何を見て、どれを異常と判断するのか、見逃すか、ここが運命の分かれ道になります。点検のときにただ見るのか、観察するように診るのかの違いだと思っています。こんな仕事を長年やっていると、だんだん猜疑心が強く素直な人間になれないのではと心配していますが・・・既になっているかもね。

こんな具合に、私達は、電気、水、蒸気等が使えて当たり前ですが、この当り前のものを当り前に供給する事に苦勞しながら、毎日業務について



います。

ここでスタッフのプロフィールを紹介します。

#### 主任 種平 孝義

一番の年寄りで54歳になります。勤務して18年です。今年は1人息子の受験で親子ともども落ち着かない今日この頃です。(写真前左)

#### 汽缶士 蔵本 隆文 勤続13年。50歳

4人家族で、去年長女が嫁に行き、最近うれしさと体に穴があいたような寂しさが同居していて、複雑な心境です。(写真前右)

#### 電気技術員 岩坂 真二 勤続15年 43歳

4人家族です。息子二人が補助輪なしで自転車に乗れるようになりました。家族でサイクリングに行くのが夢です。(写真右端)

#### 汽缶士 林 和宏 勤続15年 34歳

娘二人の躰に甘く親ばかだと妻にしかられています。「子供をしかるのはいつも私よ！いやな役目ばかりさせて…プップ」最近妻が口癖のように言っています。仕事では最近整備計画で設備内容が変り、猛勉強中です。1日でも早く慣れるよう頑張っています。(写真中央)

#### 汽缶士 福田 健作 勤続12年。30歳

この2年くらいは整備計画の工事で休日出勤が多くなり息子3人との休みが合わなくなり遊んでやる時間が減ってきました。たまに休みが合うと公園に行ったりして家族サービスに努めています。仕事上では今回の改修工事で設備等が変り、中には複雑になったものもあり益々大変になってきました。まだまだ未熟ですが頑張っています。(写真左端)

こんな色気の全くない男だけの職場です。スタッフもそれぞれに頑張っています。

それでは、女性スタッフの登場なんてあらぬ期待をしながら職場紹介を終わります。

## お 知 ら せ

第3回 リウマチ教室を開催します

期日：H16年3月26日（金）13時30分～15時

場所：玉造厚生年金病院 会議室

内容：講演「関節リウマチの最新治療P-Ⅱ」

講師 川上医長

大勢の方のお越しをお待ちしております

「1日看護体験」も7月下旬ごろ実施する予定です

玉造厚生年金病院では、

患者様が持つ権利を尊重し、良質な医療を提供します。

- 1、あなたは、人種・国籍・性別・年齢・宗教・その他の個人的な背景に拘わらず、差別なしに適切な医療を受ける権利を持ちます。
- 2、あなたは、担当の医師や病院を自由に選択できる権利を持ち、またどの治療段階においても、他の医師の意見を求める権利を持ちます。
- 3、あなたは、すべての医療上の記録を知る権利を持ちます。また医師から症状について十分な説明を受ける権利を持ち、自分自身に関わる治療方針を自由に決定できる権利を持ちます。
- 4、あなたのプライバシーと個人情報には完全に保護いたします。

## 編 集 後 記

「夕映え」いかがでしたでしょうか。病院機能評価受審準備委員会で、院内誌を発行することが決定した時「玉病新聞」なんてダサい名前を提案したら、叙情的な名前をと全員のご意見でした。エレガントなNさんより「夕映え」の提案があり、宍道湖の美しい夕日から浮かんだとの理由に合点。即命名しました。

皆様、他に良い名前がありましたら、庶務課までご連絡ください。お待ちしております。